

経営系大学院機能強化検討協力者会議 第4回
経営系大学院を取り巻く現状・課題について

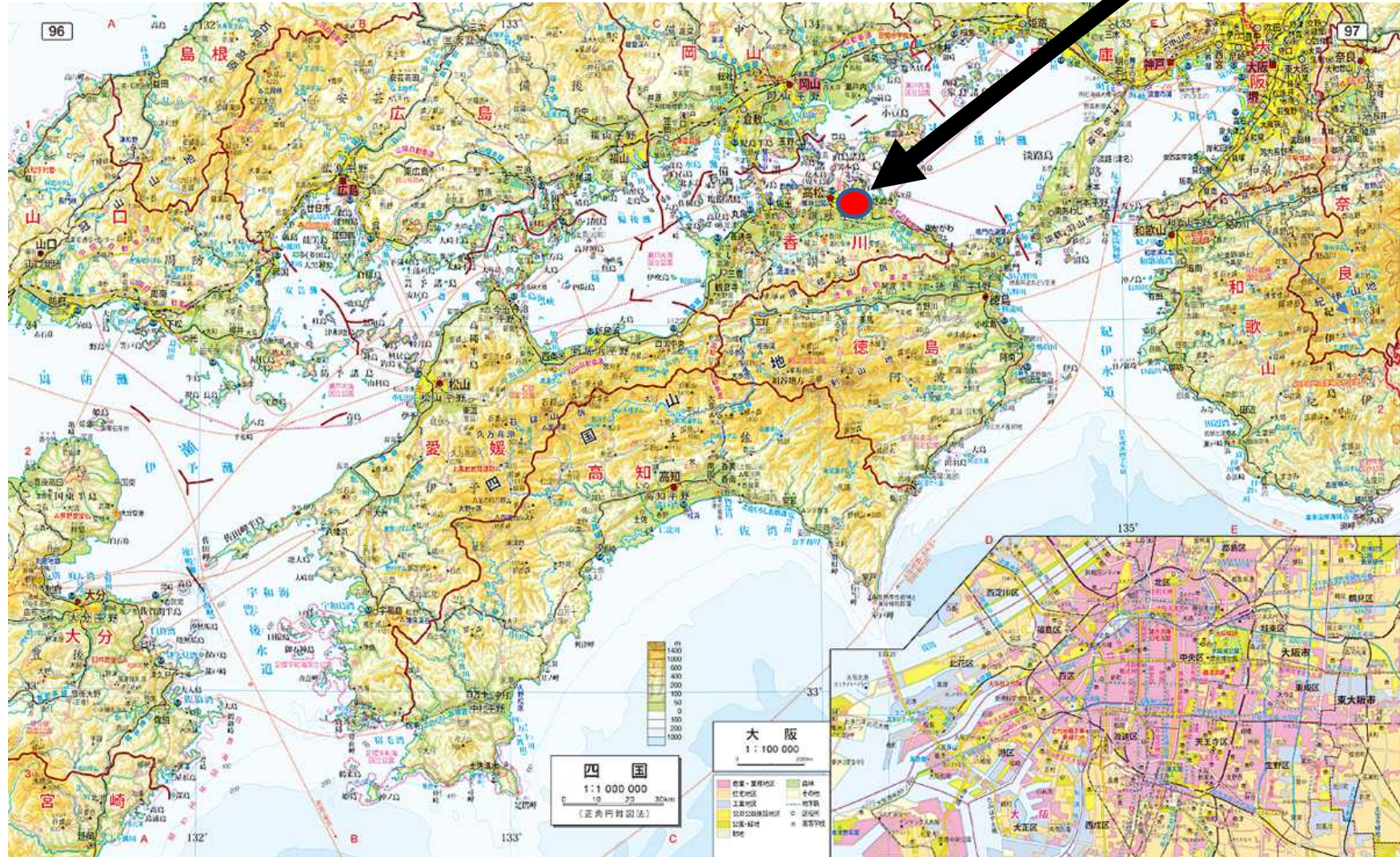
「地域マネジメントの挑戦
～地域ベースのMBA
14年の実践を通して～」

国立大学法人
香川大学大学院地域マネジメント研究科
研究科長 原 真志

2018年4月19日(木)
於：文部科学省3階 3F1特別会議室

地マネはどこに？

ここ！



四国の地域活性化パワー



さいさいきて屋
JA大規模
産直市場



瀬戸内
国際芸術祭

高松
丸亀町商店街
再生事業



四万十ドラマ
新聞バックetc



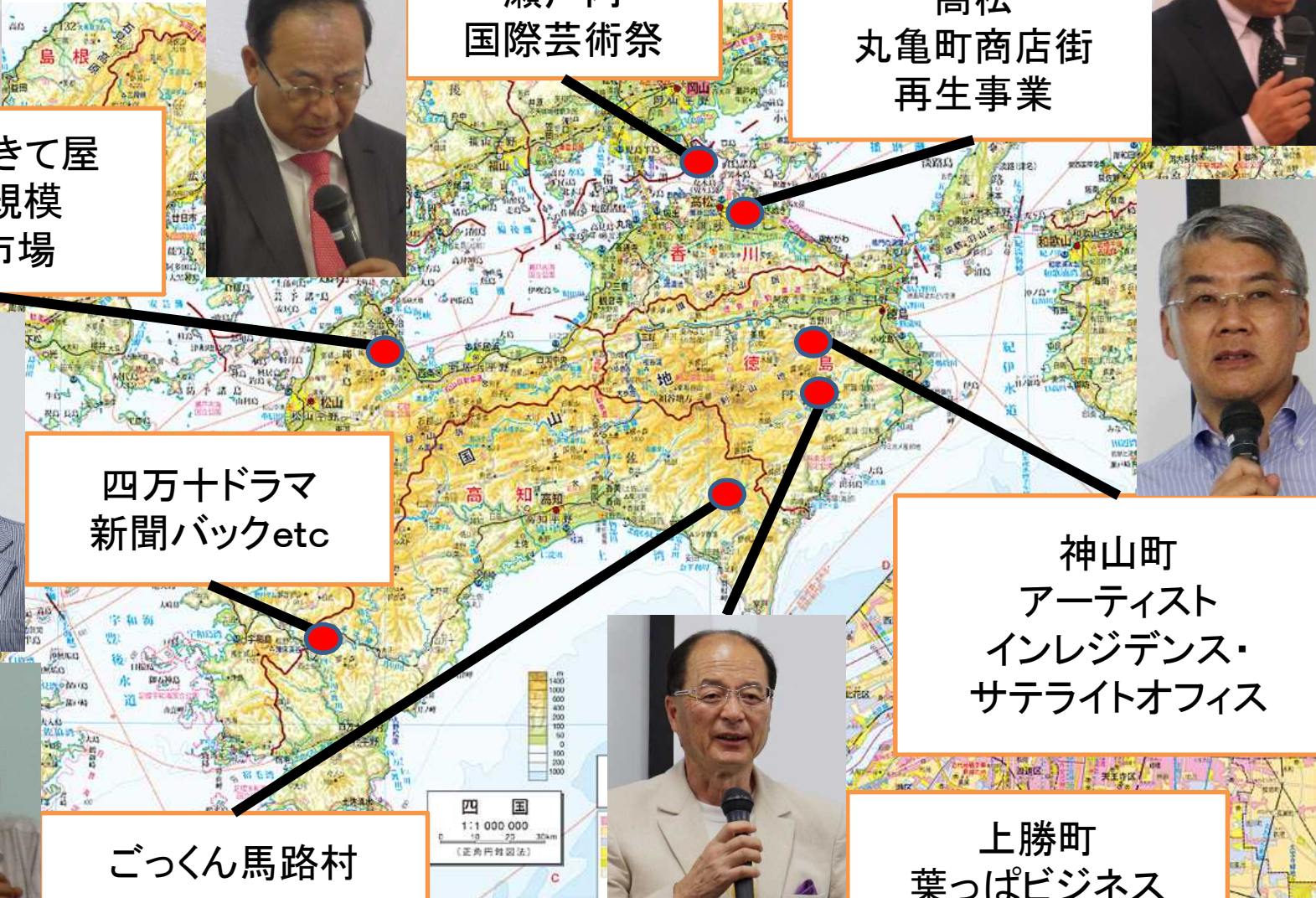
神山町
アーティスト
インレジデンス・
サテライトオフィス



ごっくん馬路村



上勝町
葉っぱビジネス



1. 地域マネジメント研究科の 基本的特徴

2002年

国際化のこの時代に、
なぜ地域なんですか？

2002年経営系専門職
大学院設置審ヒアリング



1997年

自治体版MBAを
つくりましょう！

高松にそんなニーズが
あるんですか？
時期尚早！

1997年
香川大学経済学部
地域社会システム学科



2004年設立！



ビジネスと公共政策の融合による実践的教育

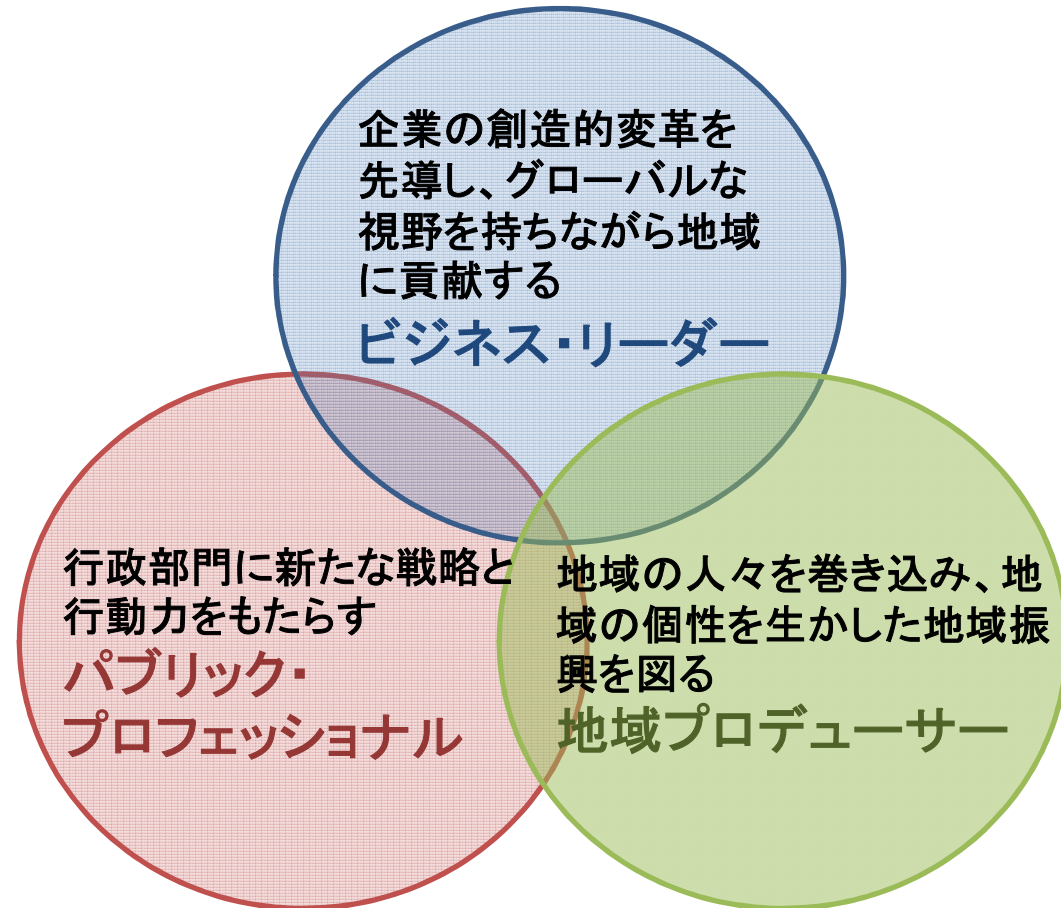


地域活性化に貢献する教育・研究に焦点をあてた
MBA

地方創生のパイオニア！

■地域マネジメント研究科の固有の目的

- **地域活性化**に貢献する教育研究を通して、高い倫理観とグローバルな視野のもと、**マネジメント**や**地域政策**に関する能力を醸成させ、**地域新時代**を拓く**企業・行政**等における**プロフェッショナル**として、**高い志**を持って**地域**を支え、かつ**マネジメント**することのできる**リーダー**を**養成**することを本研究科の**固有の目的**とする。



地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成する。

■地域マネジメント研究科の概要



学位名称: 経営修士(専門職)

MBA (Master of Business Administration)

学生定員入学定員: 30名

収容定員: 60名(平成30年4月56名在籍)

授業時間:

平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯

第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30

土曜日8:50～17:50

他に夏季集中講座

標準修業年限: 2年

修了要件: 40単位以上の取得

■地域マネジメント研究科の特色

●特色となる5ポイント



多彩な専任教員＋非常勤講師



理論と実務の双方向教育



きめ細やかな少人数教育

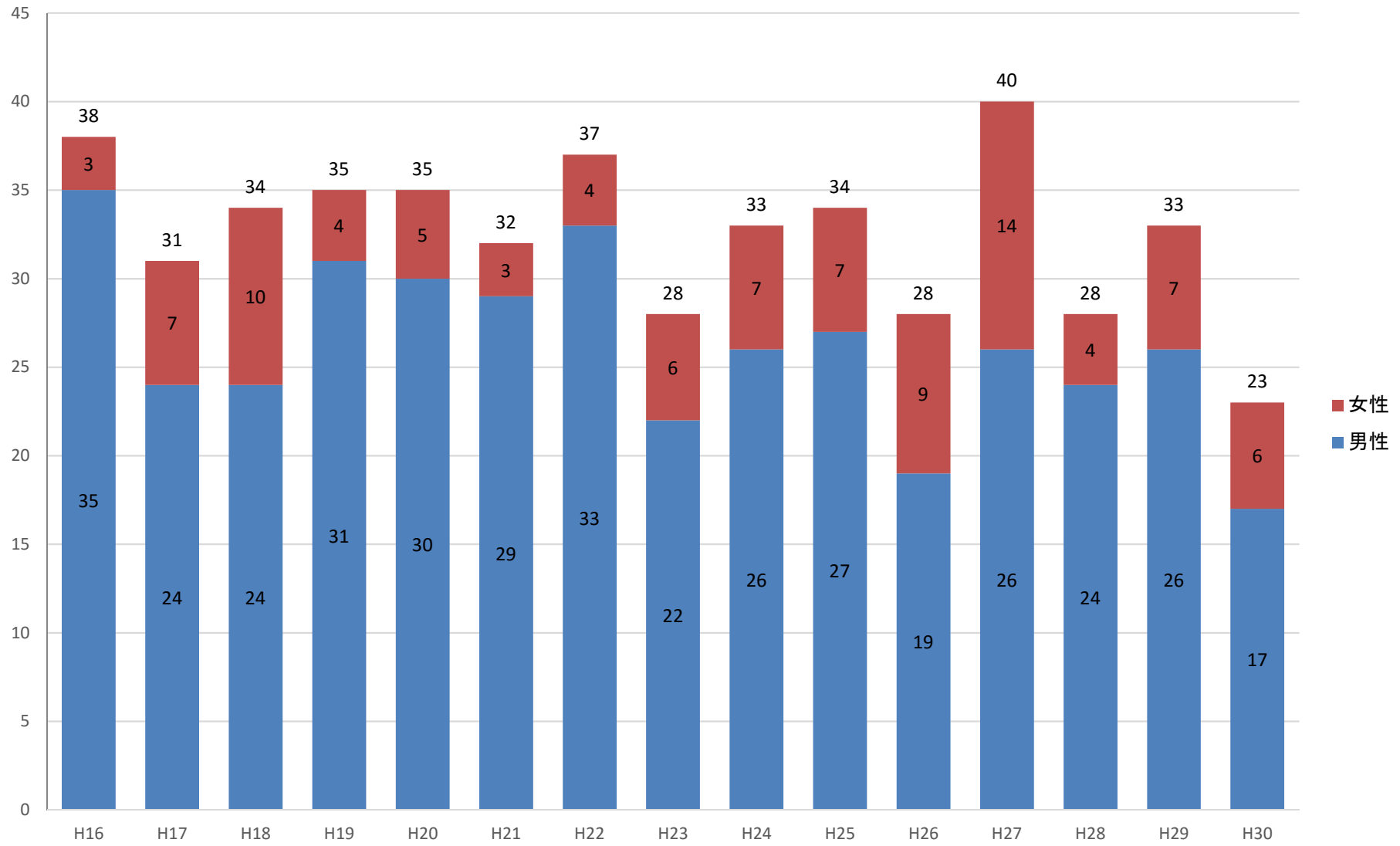


社会人に便利な教育環境

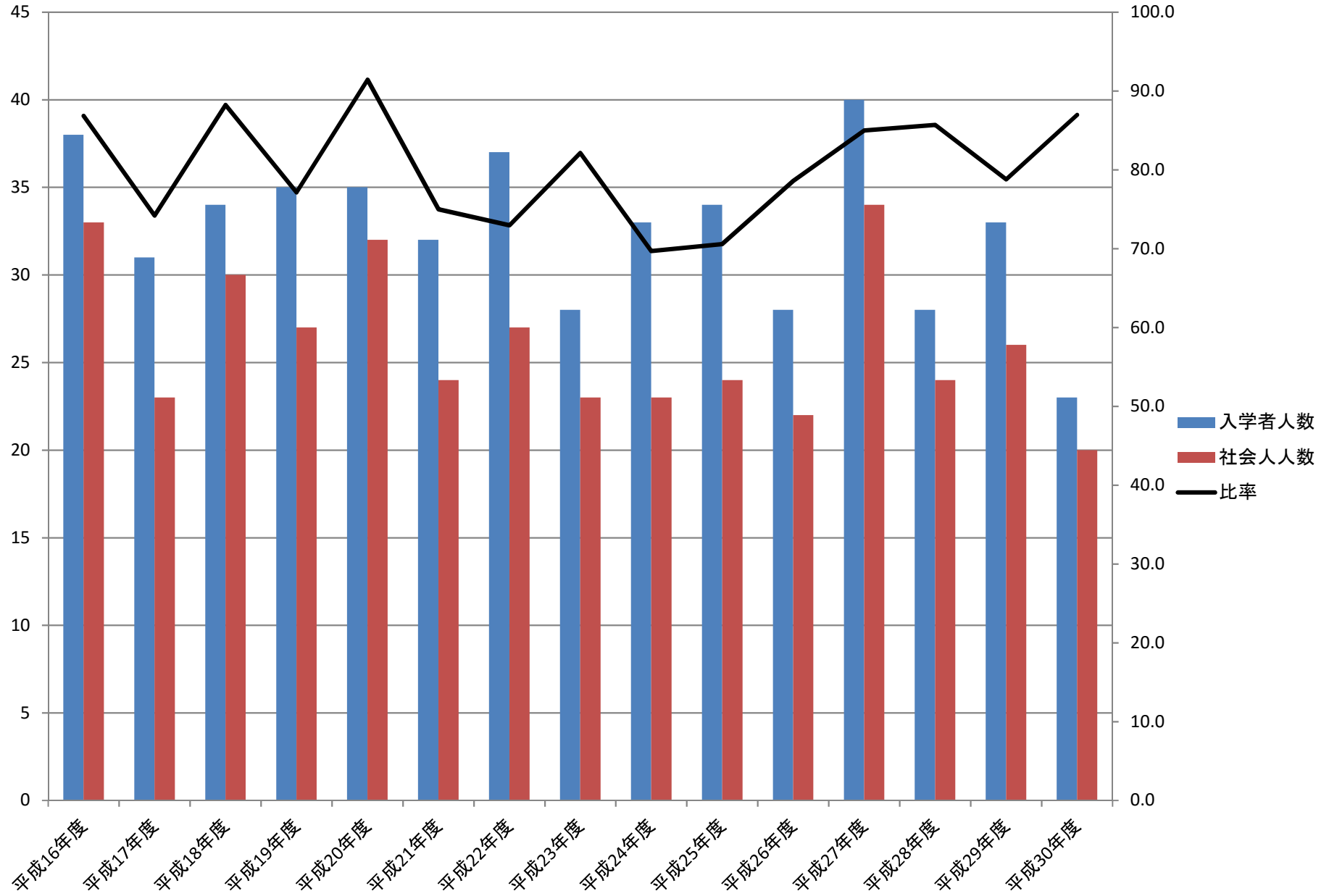


人的ネットワークづくり

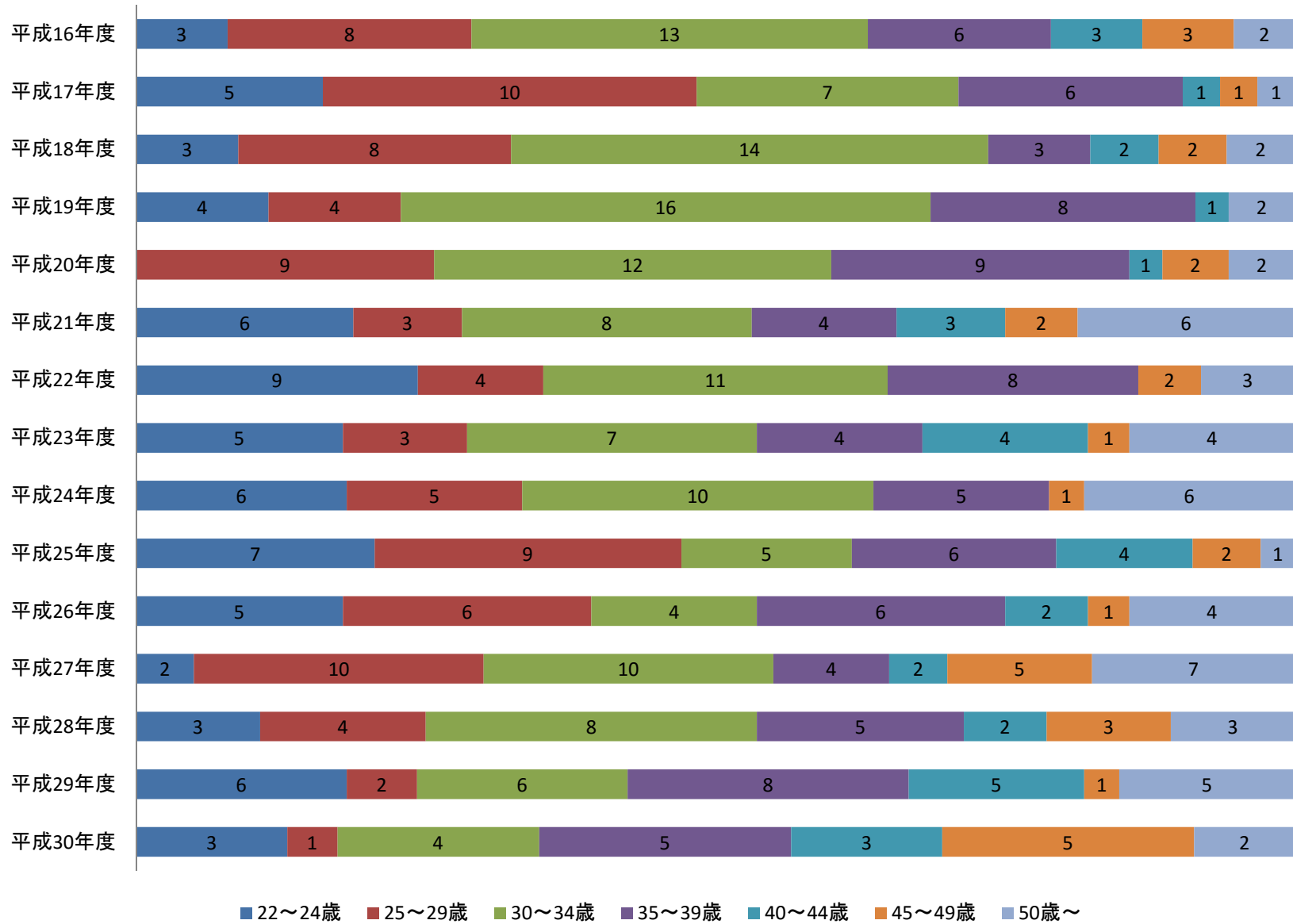
入学者の男女別



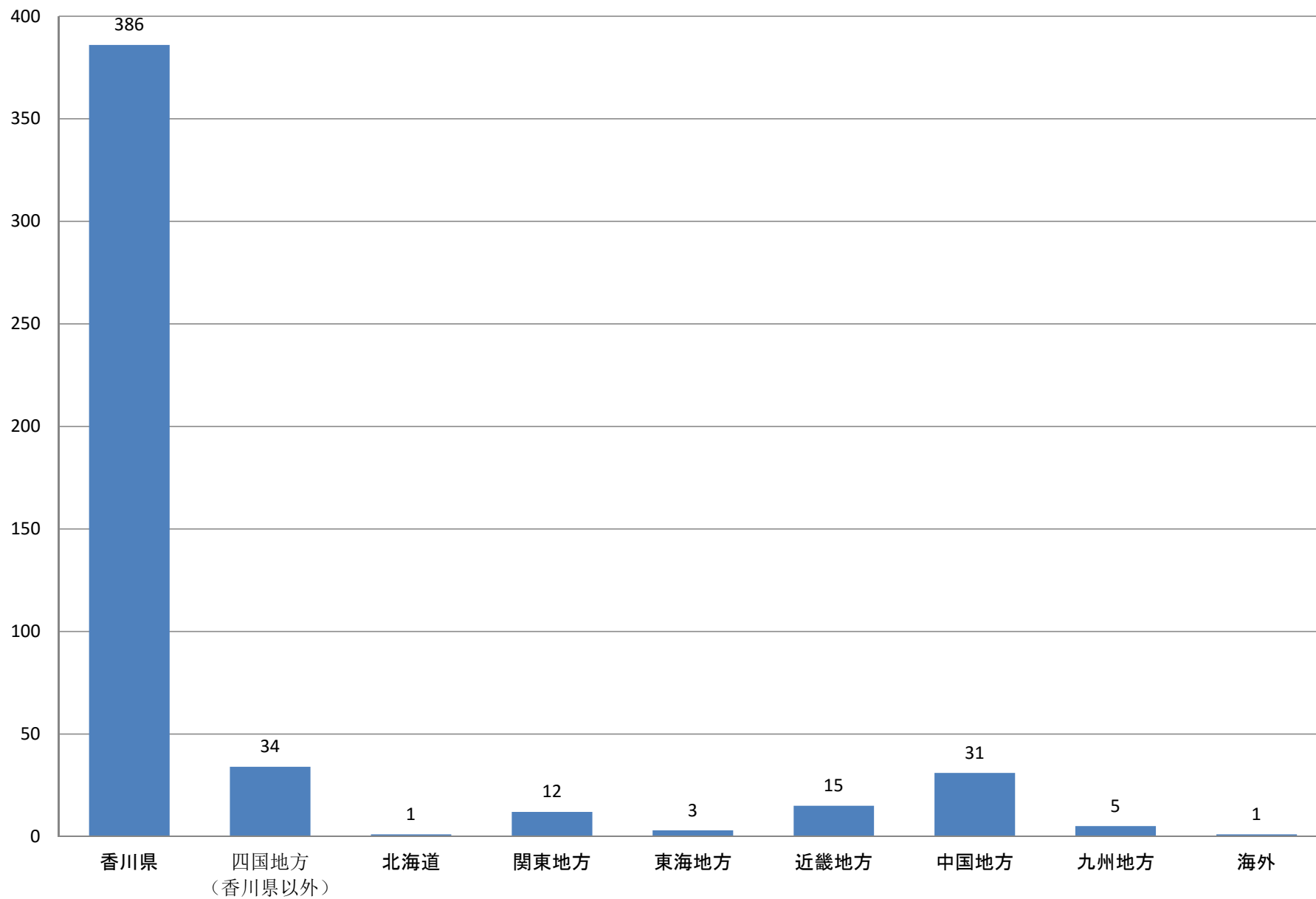
入学者に占める社会人比率と人数



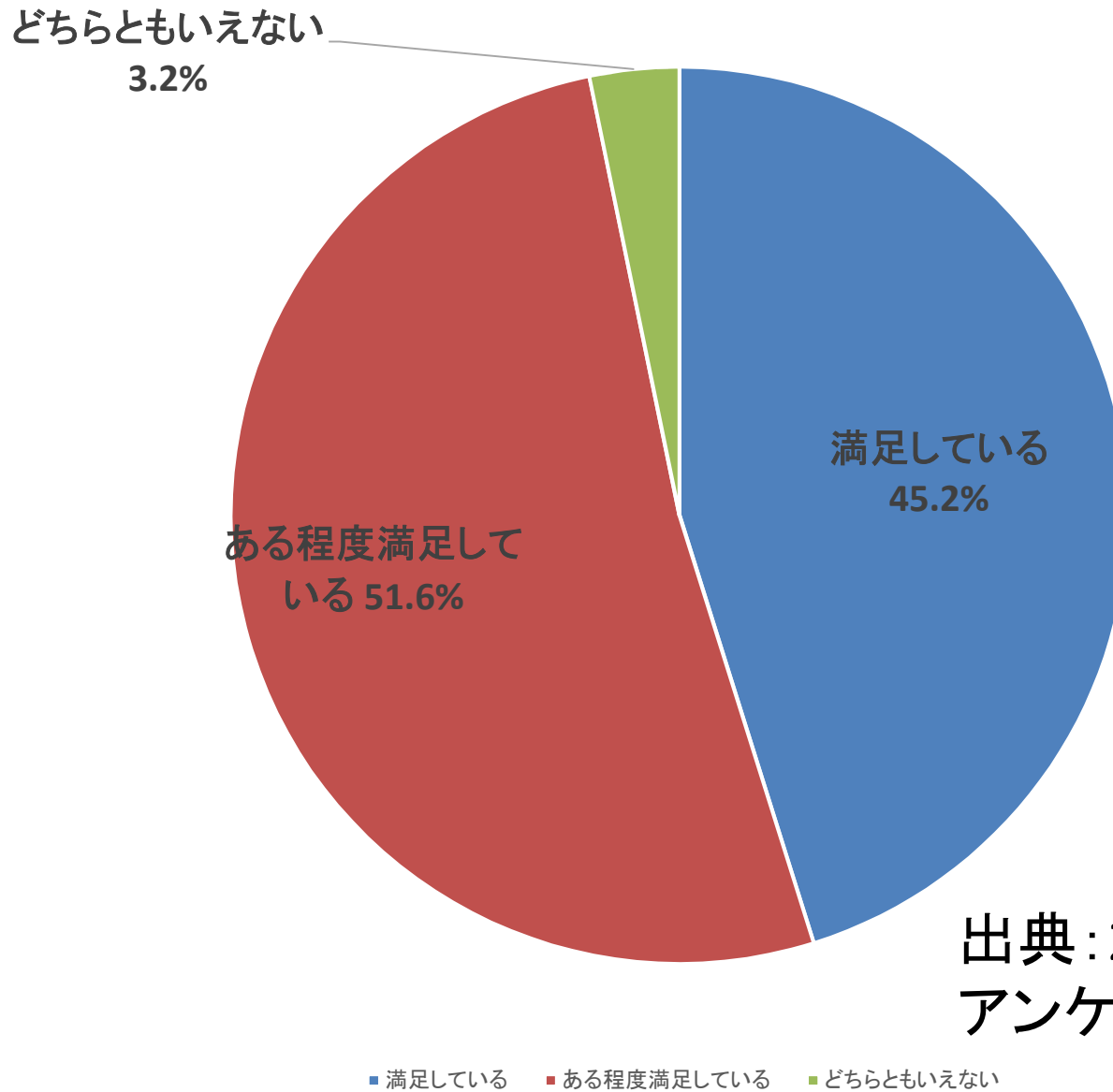
入学者年齢別構成



出願時における居住地別(入学者のみ)



学んだことに満足しているか



出典：2017年修了生
アンケート調査

研究科の中長期ビジョン

- 1) 地域に貢献するMBA教育の日本型MBA教育のモデルとしての進化・成熟
- 2) 実践的な取組みの具体化
- 3) 戦略的産学官連携の推進
- 4) 院生・修了生の力の結集による地域活性化の果実の創出
- 5) 地域活性化のための国際化の推進
- 6) 地域活性化に関する研究の促進

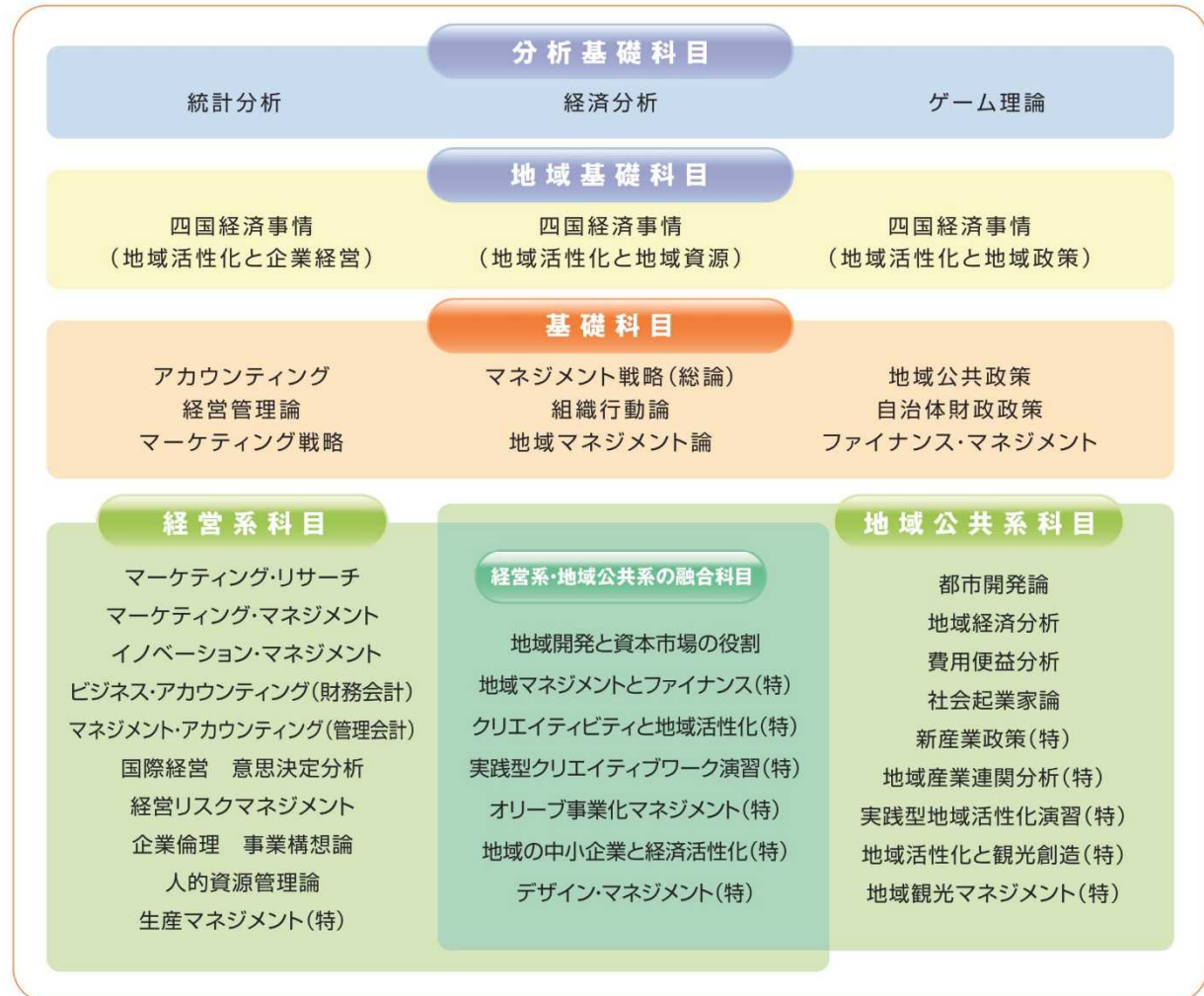
2. 人材育成の特色ある取組みや工夫

カリキュラムの特徴

- 企業経営系と地域公共系

- 科目のカテゴリー

- 分析基礎科目
- 地域基礎科目
- 基礎科目
- 応用科目+特別講義
- プロジェクト科目



「四国経済事情」の3つの授業 地域政策・地域資源・企業経営

- ・外部の実務家非常勤講師によるオムニバス授業
- ・常勤教員が全授業に出て、最後に全体をまとめる一コマの授業を行う
- ・地域マネジメント研究科の特性を反映した授業として過去の認証評価でも高く評価

平成29年度「四国経済事情(地域活性化と地域政策)」

- 第1回 4月12日(水) 岩崎 憲郎 高知県大豊町長
- 第2回 4月19日(水) 菱川 功 日本銀行高松支店長
- 第3回 4月26日(水) 浜田 恵造 香川県知事
- 第4回 5月10日(水) 大西 秀人 高松市長
- 第5回 5月17日(水) 瀬部 充一 四国運輸局長
- 第6回 5月20日(土) 中山 恭子 参議院議員
- 第7回 5月24日(水) 野津山 喜晴 四国森林管理局長
- 第8回 5月31日(水) 余島 義豊 四国財務局長
- 第9回 6月7日(水) 長濱 裕二 四国経済産業局長
- 第10回 6月14日(水) 坂井 康宏 中国四国農政局
- 第11回 6月21日(水) 井原 辰雄 四国厚生支局長
- 第12回 6月28日(水) 名波 義昭 四国地方整備局
- 第13回 7月5日(水) 綾 宏 坂出市長
- 第14回 7月12日(水) 日下 隆 四国総合通信局 総務部長
- 第15回 7月19日(水) 高塚 創 地域マネジメント研究科副研究科長(総合討論)

平成29年度「四国経済事情(地域活性化と地域資源)」

- 第1回 9月4日(月) 三好 勝則 香川大学客員教授 アーツカウンシル東京機構長
- 第2回 9月5日(火) 山下 拓未 株式会社あわえ 取締役COO兼事業開発部部长
- 第3回 9月6日(水) 大南 信也 特定非常利活動法人グリーンパレー 理事長
- 第4回 9月7日(木) 浅野 智英 総社市まちかど郷土館 館長
- 第5回 9月8日(金) 古川 康造 高松丸亀町商店街振興組合 理事長
- 第6回 9月9日(土) 明神 浩 ICTビジネス研究会 事務局長
- 第7回 9月11日(月) 畦地 麗正 株式会社四万十ドラマ 代表取締役
- 第8回 9月12日(火) 益田 祐美子 株式会社平成プロジェクト 代表取締役社長
映画プロデューサー
- 第9回 9月13日(水) 笠原 良二 公益財団法人福武財団 アート部門担当部長
- 第10回 9月14日(木) 中村 公一 一般社団法人産業人知的財産協議会 代表理事
- 第11回 9月15日(金) 多田 善昭 多田善昭建築設計事務所 代表
- 第12回 9月19日(火) 大森 研一 合同会社ウサギマル 代表 映画監督
- 第13回 9月23日(土) 横石 知二 株式会社いろいろ 代表取締役
- 第14回 9月25日(月) 山口 仁八郎 株式会社丸の内ホテル 総料理長
- 第15回 9月26日(火) 吉澤 康代 地域マネジメント研究科 准教授

香川大学大学院地域マネジメント研究科

平成29年度「四国経済事情(地域活性化と企業経営)」

- 第1回 10月6日(金) 半井 真司 四国旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
- 第2回 10月13日(金) 山本 俊嗣 サントリー酒類株式会社 四国支店長
- 第3回 10月20日(金) 植田 智生 大倉工業株式会社 代表取締役社長
- 第4回 10月27日(金) 高木 孝征 香川県信用保証協会 会長
- 第5回 11月1日(水) 真鍋 康正 高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長
- 第6回 11月10日(金) 植田 貴世子 株式会社クラッシー 代表取締役社長
- 第7回 11月17日(金) 辻 幸則 株式会社日通自動車学校 代表取締役社長
- 第8回 11月24日(金) 渡部 哲也 高松空港株式会社 代表取締役社長
- 第9回 12月1日(金) 中條 博之 香川証券株式会社 代表取締役社長
- 第10回 12月8日(金) 多田野 宏一 株式会社タダノ 代表取締役社長
- 第11回 12月15日(金) 曾川 則昭 香川県農業協同組合中央会 会長
- 第12回 1月19日(金) 原田 雅仁 四国電力株式会社 常務取締役
- 第13回 1月26日(金) 黒江 賢司 三菱商事(株)四国支店長
- 第14回 2月2日(金) 板谷 和彦 地域マネジメント研究科 教授
- 第15回 2月9日(金) 綾田 裕次郎 株式会社百十四銀行 取締役頭取

香川大学大学院地域マネジメント研究科

実務家非常勤講師による 多彩な講義の例

- 四国ツーリズム創造機構・四国経済連合会提供講義
- 「地域活性化と観光創造」

- 公益財団法人かがわ産業支援財団提供講義
- 「中小企業と地域活性化」

- 野村証券グループ提供講義
- 「地域開発と資本市場の役割」

複数指導体制の「プロジェクト研究」



プロジェクト研究のテーマは、
製造業、農業、IT、観光、コンテンツ、
医療、福祉、まちづくり、人材育成など
様々な対象に、
アプローチも、定性・定量の学術研究～
ビジネスプラン・社会実験など実践型まで
多様ないし組合せ

- 修士論文に替わるもの
- 1) 学術論文
- 2) ビジネスプラン作成、地域活性化の取り組みの試行など実践的なもの

- 1年次 アカデミックアドバイザー
(複数教員)
- 学期初頭に学生ニーズに合わせた履修指導
- 年度末にプロジェクト研究テーマ相談
- 2年次 プロジェクト研究担当
(複数教員)
- 前期: プロジェクト演習、中間審査会
- 後期: プロジェクト研究、最終審査会

- プロジェクト研究公開報告会 2年次3月
- 優秀な6本程度を選抜して一般公開で報告
- 同窓会による表彰
- 香川県・市町とのプロジェクト研究交流会の実施
- 修了後の7～8月頃

大学院生主体のシンポジウム開催 テーマ

- 2006年 「アグリビジネスと地域マネジメント
～時代をつかもう！四国のフロンティア！～」
- 2007年 「四国ブランドと地域マネジメント
～つなげ地域の心の和 ひびけ世界に四国の力～」
- 2008年 「ワーク・ライフ・バランスと地域マネジメント」
- 2009年 「社会起業家と地域マネジメント」
- 2010年 「香川ハリウッド化計画!?'ロケ地から聖地へ!』
－映画で地域活性化大作戦!!－」
- 2011年 「讃岐の島々×地域マネジメント
～いってみよう！住んでみよう！豊かな島の生活を求めて～」
- 2012年 「地域経済活性化への提案～中国からの観光客受入戦略～」
- 2013年 「瀬戸内地域活性化への提案」
- 2014年 「SANUKI×KABUKI」
- 2015年 「ゲストハウス”について香大MBA学生が考えてみた。
～観光客の嗜好の変化と、小規模宿泊施設の可能性について～」
- 2016年 「四国遍路×出会い×地マネ」
- 2017年 「インバウンド礼賛にモノ申す！」

■香川ビジネス&パブリックコンペ2017



香川を元気にするビジネスプラン、パブリックプランを公募して表彰
スポンサー企業の協賛により実施

2017年度は64件の応募

一次審査通過10件のプレゼンによる最終審査会(2017年11月25日)

ビジネス部門グランプリ

岸田 智子(三木町)『讃岐平野で眠る薬草「ウマブドウ」 生き抜いてきた植物には命が満ちている!』

地域公共部門グランプリ

田中 未知子(高松市)

『現代サーカスの要素を使った「フィジカルアート・トレーニング」デリバリー事業』

政策提言プレゼンテーション(2018年2月1日)

香川大学大学院地域マネジメント研究科

香川ビジネス&パブリックコンペ プラン・受賞の傾向

- 1) 入賞者に女性が大躍進
- 柔軟な発想、生活や経験に根差す、
- 多様な協力者のチーム構築
- 2) 社会的意義を持つものが多い
- 地場産業、離島、高齢者、障がい者、
- 子ども、シングルマザー、世代間、
- → ストーリー性を持ったプランへの共鳴
- 3) 年々、プランの質が向上
- ← 協賛企業審査員からの意見



■アドバイザー・ボード

●アドバイザー・ボード会議

本研究科は、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、社会的責任を果たしていくため、教育研究活動等の現状を把握して自己点検・評価を行い、毎年、地元有識者の方々からなるアドバイザー・ボードから、ご意見やご教示をいただいています。

●アドバイザー・ボード専門家会議

毎年開催しておりますアドバイザー・ボード会議に加えて、5年に1度、大学関係の専門家からなる専門家会議で、ご意見やご教示をいただいています。



平成26年度アドバイザー・ボード会議



アドバイザー・ボード専門家会議

文部科学省平成29年度 高度専門職業人養成機能強化促進委託事業

テーマ

地方創生推進のための経営系専門職大学院機能強化事業
～メディア・コンテンツ活用、国際化、ポストMBAプログラム、
ケースメソッドを軸に～

目的

本事業は、香川大学大学院地域マネジメント研究科（以下、研究科）が、平成16年（2004年）の設立以来、地域活性化に貢献する実践的経営人材の育成をミッションとして取り組み13年間で382名の修了生を輩出して来た実績を踏まえ、地方国立大学に期待される地方創生への役割に応えるための経営系専門職大学院の機能強化を趣旨として、地方創生推進のための教育プログラムの開発を行うことを目的とする。

達成事項と残された課題・地域からの要望

| 達成事項 | 残された課題・地域からの要望 |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) 創設後13年間の実績2) ほぼ2学年60名定員を充足 300名を超える修了生 学生バックグラウンドの多様化 職場では得られない ネットワーキング機会3) 産学官連携の取り組みの進展 アドバイザーボード会議4) 経済団体による提供講義、5) 公式非公式による人材育成と協働 のための多様な場の提供 香川ビジネス&パブリックコンペなど | <ol style="list-style-type: none">1) 活動の効果的情報発信2) 地域活性化のための国際化3) 修了生の活動支援4) 地域の大きな方向性を示す産学官共同研究5) 点在する地域活性化の取り組みを束ね、持続可能なビジネスに練り上げる役割 |

地方創生のための経営人材育成強化 ～4つのプログラム開発～

国際ビジネス研修プログラム

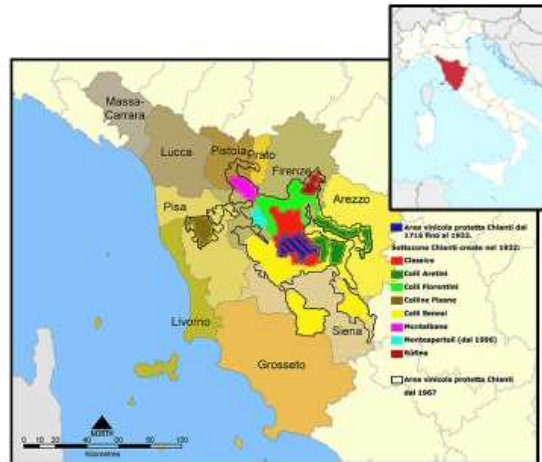
四国型地域マネジメント・ケースメソッド教育

メディア・コンテンツ活用人材教育プログラム

ポストMBAプログラム

国際ビジネス研修参加者レポートプレゼン例

2年 16S325 西村 美樹



・黒い枠内が「キャンティ」の生産保護地域。中央トスカーナの大部分をカバーする丘陵地帯（標高500～650m）で、「キャンティ・クラシコ」を産する地域を中心に、取り囲むような形で拡大している。

・作付面積は24万ヘクタールでトスカーナの約10%にあたり、ボルドーのワイン産地より大きい。

・「キャンティ」と「キャンティ・クラシコ」合計で、年間1億3千万本以上を生産しており、DOCGワインとしてはイタリア最大である。

「AGRITURISMO TENUTA DI STICCIANO」アグリツーリズム



オーナーのSTICCIANOさん



所有するブドウ畑

さぬき市大串半島におけるワインツーリズムでの応用

- ▶ 香川県のさぬき市大串半島は、県内屈指の美しい景色を有する観光資源である。
- ▶ 昭和57年から様々な目的や補助金によって開発整備された10施設は芳しい活用もないまま休止が相次ぎ、現在さぬきワイナリー、シーサイドコリドール（コテージ・オートキャンプ場）など4施設のみ稼働。
- ▶ これまでの経緯を勘案し、大串半島には、さぬきワイナリーを中心としたワインツーリズムによる活性化が必要であると考え、今回のイタリアでのアグリツーリズム等の経験を先行事例として研究に取り入れたい。



まとめ

- ▶ 今回訪問したイタリアのワイナリーおよび周辺の農村はいずれも美しかった。しかし、このイタリアの美しい田園風景は自然に形作られたものではない。
- ▶ イタリアの農村の過疎化は日本以上に深刻で、農業人口は激減し、耕作放棄地も多く、廃墟と化した農作業小屋が散見されていた。そこで、アグリツーリスト協会が過疎化した広大な農地に観光を通じて賑わいを取り戻すためアグリツーリズムを導入し、そして徐々にイタリアの農村は美しいものへと変化していった。
- ▶ イタリアでは1985年にアグリツーリズム法が制定され、各州が独自の規定を加える形で農業の観光化による安定的な農村の発展を試みてきた。
- ▶ 日本ではまだこうしたバックアップ体制は不備であるが、ワインツーリズムなどによる観光での成功事例ができれば、おのずと行政や法整備も補完されると考える。
- ▶ とはいえ、日本においてイタリアのアグリツーリズムの様式を取り入れている事例はまだあまりみられない。大串半島のさぬきワイナリーにおいて、いかにイタリアのアグリツーリズムを導入するかは、多くの検討が必要だが、大串半島周辺はアグリツーリズムを導入するにふさわしい魅力ある場所である。今回の研修での学びを活かし、ブドウの産地とは異なるさぬき市版ワインツーリズムを日本における先進事例にしたいと考える。

3. 地域経営人財育成の核心

MBA批判

- ミンツバーグ, H(2006):『MBAが会社を滅ぼす マネジャーの正しい育て方』日経BP社.
- マネジメント＝アート(ビジョン)＋クラフト(経験)＋サイエンス(分析)のバランス。
- **実務経験のないMBAホルダーは、マネジメントとは分析(系統だった意思決定と適切な戦略の策定)のことだと思い込む(分析至上主義)→計算型マネジャーの問題性**
- 大量のケースメソッド→次から次へ情報処理して判断を迫る→**現場を見ないマネジャー**
- **社会的責任よりも報酬や自身のステップアップ**
- **＝「傭兵」集団養成→株主価値のみの重視**

MBA後発国の日本での現状に適用してみると？
地域マネジメント研究科でのMBA実践と照合すると？



地域でのダブルループ学習能力

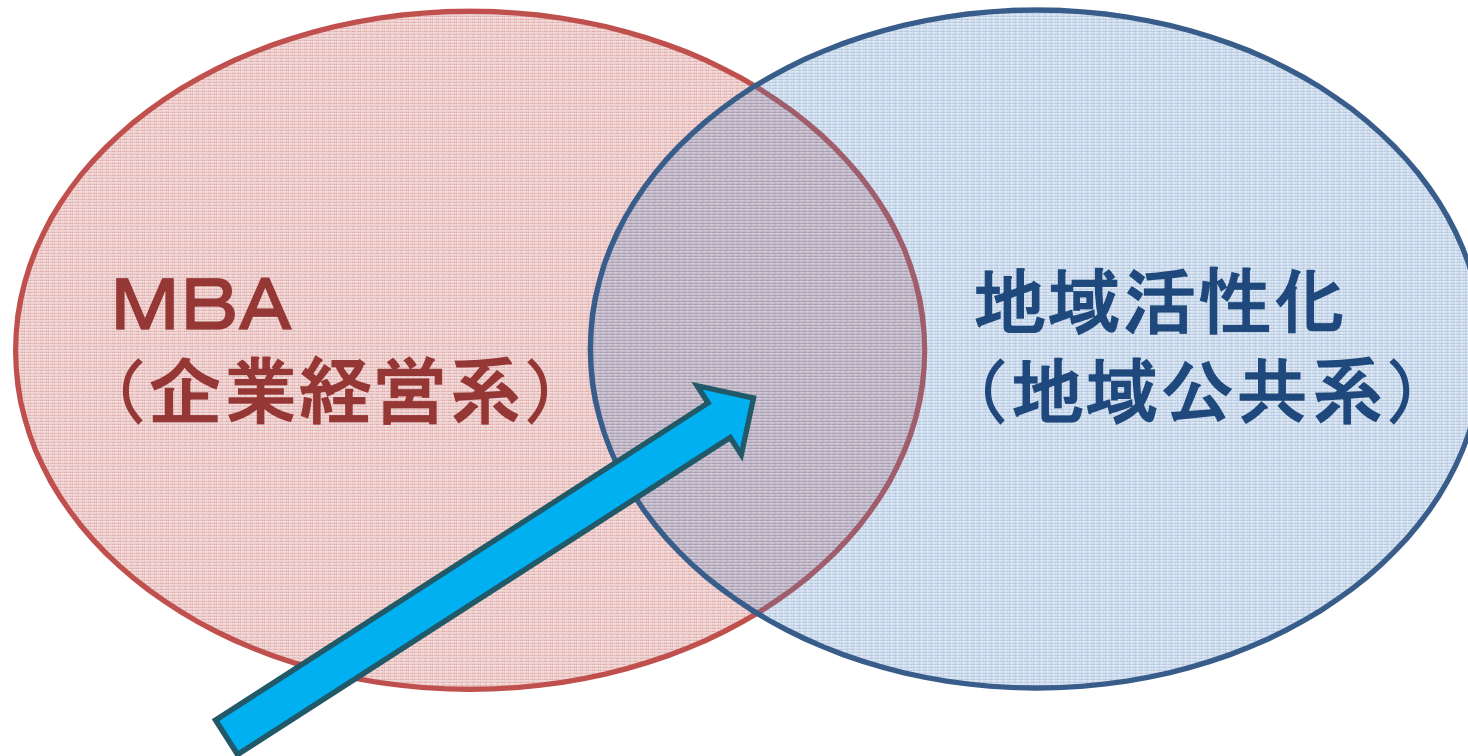
シングルループ学習

- 「所与の規範に基づいて誤りを発見し修正する能力の学習」
- →マニュアル、教科書通りに正確に処理出来る能力

ダブルループ学習

- 「規範を疑うことにより状況を『二重に見る』能力の学習」
- →想定外の問題が生じたときにも、何が問題であるかを見つけ出し、解決方法を自ら探索できる能力
- Argysis and Schon (1978)

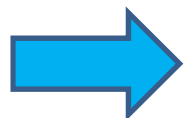
日本型MBAモデルとしての 地域ベースMBA



- フロンティアを探索している
- 地域ベースMBA

地域における実践的経営人材育成

- 既存のフレームの安易な適用では不十分
- 時間をかけて、耳を傾け、ファシリテート(我慢比べ)
- 能力育成だけでなく、自らの経験資産に気づかせる
- 大学院生達は、鋭いアンテナ・情報を持っている(院生シンポジウムなど)→現場感覚・ニーズが大学に取り込まれている
- 場としての機能が発揮されると、大学院生同士で化学反応を起こし始める
- 異なる領域の協働が始まる(地マネは基盤を提供)
- 教員もプロジェクト研究指導を通じて成長する
- 教育と研究の新たな協力関係の芽生え
- →実践的研究のインキュベーター
- 2年間のMBA期間を超えた修了生との協力関係



「あなたはどう生きるのか」という問いに行きつく

課題

- 1) 学生のリクルート
 - 少子化と言っても、社会的認知が確立している学部とは違う大変さ
 - 教員による地道な泥臭い営業活動
- 2) 予算の圧倒的縮減
 - これまでの努力が維持できない水準(信じられない惨状！)
- 3) 大学内の理解の獲得
 - 研究者養成ではなく実務家養成、夜間開講・・・
 - 社会との密接な関係を有する**ビジネススクール**の**特性**への無理解
(外からは評価いただいているのに)
 - 大量にある外部との交渉を担う専門の**事務体制**の欠如
- 4) **戦略的取組み**の推進 (本当はこれをしたいのにな・・・)
 - 地域のための国際化
 - 技術でなくマネジメント中心の産学官連携
 - ポストMBAプログラムの推進
 - など

ご清聴ありがとうございました！

